

燃料電池自動車の特長

燃料電池自動車（以下、FCV）は、水素を燃料とし、走行時には CO₂ を一切出さず、水しか排出しないことから“究極のエコカー”とも呼ばれています。1 回の水素充填での実航続距離が 700km 超と長く、充填時間も 3 分程度と短いのが特長です。



FCV の MIRAI

水素ステーションの整備促進

FCV の普及には、水素を供給する水素ステーションの整備促進が必要です。

県では水素ステーションを整備・運営する事業者に対する経費補助や、県庁内での移動式水素ステーションを活用した普及啓発活動などを行っています。県内の水素ステーションの整備数は 39 か所（2022 年 10 月末時点、整備中含む）で、全国 1 位となっています。



県庁内水素社会普及啓発ゾーン（移動式水素ステーション）

水素社会実現に向けた取組

水素社会の実現には、FCV や水素ステーションの普及に加え、水素をエネルギーとして日常の生活や産業活動に利活用していくことが重要です。

県では次世代自動車フォーラム、工業を学ぶ高校生向け FCV 専門講座、あいち水素社会体験ツアー、各種展示会など、先進的な取組や最新技術の動向を紹介する場を設けることで、水素社会の形成に向けた意識醸成を図っています。



あいち水素社会体験ツアー

また、燃料電池フォークリフト（以下、FCFL）の普及拡大にも努めています。具体的には、中部国際空港におけるフォークリフト等産業用車両の燃料電池化について、関連企業とともに検討を進めており、その成果の一つとして、2018 年 11 月に中部国際空港貨物地区において、FCFL 用の水素充填所が開所され、11 台（2022 年 10 月末時点）の FCFL が稼働しています。



セントレア貨物地区水素充填所



FCFL